

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人：ロバート・ウイットマー

カナダ合同教会の総会

校長 ロバート・ウイットマー

7月21日～27日まで宣教師(Oversas Personnel) と言う立場でカナダ合同教会の総会に正議員として参加することになり、この学報のためにカナダ合同教会の総会について書こうと思いましたが、カナダ合同教会が創立してから今年で93年になります。合同に向けての動きと協議は1902年から始まっています。その結果1925年にカナダの組合教会、メソジスト教会、長老教会の三分の二と、特にカナダの西部が多かった、すでに教派を超えて合同していたユニオンチャーチと呼ばれた教会がカナダ合同教会となりました。ユニオンチャーチの人達は、「とにかく力を合わせよう、合同教会になろう」という呼びかけを、長老教会・

メソジスト教会・組合教会に送り、それは大きな刺激になりました。1968年に福音同胞教会も加わって現在のカナダ合同教会になっています。



カナダ合同教会のある教会にあるバナー
「私たちは主にあって一つ」

私たちはユニオンチャーチであり、組合教会であり、メソジスト教会であり、長老教会であり、福音同胞教会である」

新しい世界を求め、ためによりに歩き、また連帯を強めるきっかけになっています。総会が開かれる場所、その現場についての研修と見学が必ずプログラムの大切な一部として含まれていて、多くのことを学ぶ良い機会になります。

総会の正議員は356名で、信徒と牧師は半数ずつで、各教区が正議員を選

カナダ合同教会の総会は1994年まで2年おきにカナダの各地で開かれていたが、コストが高くなった時に議員数を減らし、少しでも安くできる集まりやすい場所を開くよりも出かけることを大切に、3年おきに開くことになりました。カナダの面積は日本の26倍で、カナダ合同教会に13の教区があります。が、これまで東から西まで、そして北までの全教区を含む30ヶ所で総会を開き、その内人口1万人以下の町で4回を開いています。総会が開かれる場所が変わることによって都会の教会、地方の教会、また各地の特徴とそこにある教会の現状と課題に触れることができ、神様が示す

ぶ時には出来るだけ青年と少教者を含む議員を選ぶように努力しています。正議員の他に海外パートナー教会の陪席者、ユース(青年)・フォーラムの参加者、本部のスタッフ、様々な手伝いをしてくれるボランティアスタッフと合わせて250名で、総会の期間は大体一週間です。

多様性を尊重すると、すべての課題についてすぐにみんなが共通の理解を持てると限らないのですが、総会が開かれる前から議題を分かち合い、それについて各地で勉強をすることに少しずつみんなのものになります。総会の会場は講演を聞くように椅子を前に向けてではなく、色んな地域から遣わされた議員は輪になってテーブルの周りに座り、発題や議案の説明を聞きながら、そのテーブルのメンバーで意見と質問を分かち合います。それとは別に特に関心のある議題についての分科会もあり、そこでさらにその内容について確認することが出来ます。議案についての議論で疲れたらムードを変えて途中で歌を歌ったり、また踊ったりすることもありません。どうしても合意を得られないことについてはその課題について複数の意見を認める場合もあります。このような議



輪になって座る会場

総会議長は教会の様々な働きをした方が各地から選ばれています。住んでいるまた働いている場所が違うだけではなく、これまでの議長は牧師であり、信徒であり、男性であり、女性であり、元宣教師であり、黒人ではじめてカナダ合同教会の牧師になった人であり、韓国系カナダ人であり、先住民であり、ゲイの男性であり、レズビアン女性であり、様々です。

このような出会いと学びによって私たちが向かうビジョン(幻)は与えられると思っています。先住民ではじめて

事の進め方によってカナダ合同教会の歴史と今置かれている状況を知ることになり、信徒牧師制度を実現し、先住民族に対する謝罪を宣言し、セクシャルマイノリティの理解が深まりました。

議長になったスタン・マケイ牧師が度々述べた言葉は箴言29:18です。「幻がなければ民は墮落する」(新共同訳)。やはり教会は内向きにならず、神様の新しい世界に向かう幻(ヴィジョン)が必要ではないでしょうか。カナダ合同教会はもちろん完全ではないし、どこに向かっているかが見えない部分もあると思いますが、神の民として歩む導きを求めています。

今回の総会のテーマは“Risking Faith, Daring Hope”です。“Faith”を持つこと(信じ

ること)は先が見えないから“Risk”(賭け)のようなものかもしれないのですが、神様を信じて歩もうと呼びかける言葉です。“Daring Hope”は先が見えなくてもあえて神さまに期待しようという意味です。これからもカナダ合同教会と深い関係のある農村伝道神学校とパートナーである日本キリスト教団の関係を大切に、様々な形で手を取りあつて神の民として新しい世界のヴィジョンを求めながら共に歩むことができようように心からお祈りしています。

新任講師紹介



濱田華練

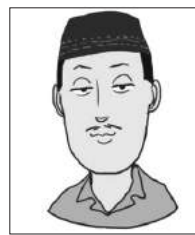
コーカサスという地名を聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。ロシアの詩人プーシキンは、この地の雄大な自然と、美しくもどこかもの悲しさをたたえた音楽を愛しました。ソ連崩壊後は、紛争や内戦など政情不安をクローズアップされることが多

かったこの地域ですが、最近では南コーカサスのジョージア(グルジア)出身力士の栃ノ心の活躍が話題になっています。とはいえ、多くの日本人にとつては馴染みの薄い地域であり、さらにそこに根付いた古いキリスト教の伝統について知る人は多くありません。4世紀にローマ帝国で公認され、のちに国教となるキリスト教ですが、ほぼ同じ時期(一説ではローマ帝国よりも早く)コーカサスの諸王朝でも受容されました。古代の王朝が滅んだ後もキリスト教信仰自体は残り、アルメニア教会、グルジア正教会として現在に至っています。私の専門は、こ

うしたコーカサスのキリスト教史です。研究を始めた当初は、ロシア研究のフィールドにいたのですが、コーカサスという未知の地に惹かれ、気が付いたらどっぷり浸かっていました。ちなみに、私の名前は華練(かれん)といいませんが、実は「カレン」はアルメニアの伝統的な男性名です。もちろん、両親は全く知らずにこの名前をつけてくれたのですが、その時からコーカサスとの不思議な縁が始まったのかもしれない。

このたび、農村伝道神学校で古代・中世教会史を担当する機会をいただきましたが、クリスチャンでもなく、さらにキリスト教史の中でもかなり特殊な地域を扱う私が神学校で教会史を教えるということについて、不安を覚えたこともありました。しかし、初めてこの学校を訪れたとき、鬱蒼と茂る木々と険しい道を歩いていくうち、アルメニアやグルジアで、山道に分け入って教会を目指したときのことか思い出され、なんとなく懐かしい気持ちになりました。また、コーカサスの人々はとにかく明るく、歌うこととお客をもてなすこと、みんなの食事をすることが大好きなのですが、農伝の先生方、職員、学生の皆様から受ける印象と、

どこか重なるような気がします。すべて私個人の勝手な所感ではありますが、山深いコーカサスをフィールドとする私には、この環境がことのほか馴染むようです。この居心地のよい場所を与えてくださった皆様に、こちらからも少しでもよいものをお返しできよう、微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。



ナセル永野

私は普通の日本人的な宗教観の家庭に生まれました。実家には神棚も仏壇もありましたし、神社コミュニティにも檀家コミュニティにも属していたようです。しかし、私自身は「宗教」について何も意識することのない幼少時代を過ごしました。

はじめて「宗教」を意識したのは小学校3年生の時です。地下鉄サリン事件が発生し、毎日のようにテレビから流れる「マインドコントロール」洗脳というキーワードから「宗教」怖い・危ない」というイメージを強烈に植えつけられました。

そして、高校2年生だった2001年に「9・11」が発生しました。さらに、その後から途切れなく続く「イスラム原理主義者によるテロ」という報道から、私も多くの日本人と同じように「イスラムテロ」怖いもの」というイメージを当然ながら持つていました。

私の最初の転機は大学生の時に受講したイスラムの講義でした。今までマイナス情報しかなかった宗教、しかもテロリストのイメージしかないイスラムのことを学問として体系的に学んだことは「カルチャーショック」でした。それは人生最大の知的好奇心が奮起される体験でした。

私の専攻は文化人類学だったので、実際にイスラムコミュニティでの調査を行っていました。実際にムスリムと触れ合う中で偏見が消えていくとともに、言葉では表現できない「居心地の良さ」のようなものを感じ、気がついたらイスラムに入信してしました(笑)。ですので、何か特別な経験があったわけではありませんが、私がイスラムへ入信した理由は本当に「何となく」としか言えないのです。

私の第2の転機は1冊の本

を読んだことでした。モハメド・ハタミ『文明の対話』を読んだことで「宗教間対話」という概念を知り、本に書いてあることを実践し始めました。日本ではムスリムが少ないこともあり、お寺や教会などに呼んで頂き講演やイベントを行なっています。

定期的な活動としては、仏教・キリスト教・イスラム教の世界三大宗教を体験できるワークショップグループ「WORKSHOPAID」を主催し、ファシリテーターを務めたり、僧侶・牧師とともに運営しているネットラジオ番組「超宗教コミュニティラジオ ピカステ」のメインパーソナリティーを務めています。

2017年からは「キリスト新聞」の宗教リテラシー向上委員会のコラムニストの一人として執筆活動もしています。(ネットで読めるので講義の前に一読して頂けると嬉しいです。)

よく勘違いされるのですが、私はイスラム教の聖職者ではありません。(…というよりイスラム教に聖職者は存在しません。)一方的に教えるような立場ではありませんので、お互いに良い学びの場となるような講義をしていきたいと思っております。

新任カウンセラー紹介



高田良実

農伝は私にとって、高校生の時から時折かわりがあり、長年「近くて遠い」存在だったので、昨年のアドベント礼拝出席をきっかけにお声がけいただきまして、今年度学期中毎月第二、四木曜日の午後に来校させていただいています。

私は、1962年川崎市多摩区生まれで、今もそこに住んでいます。中学生の時に同級生に誘われて近所の教会学校に通うようになったのがキリスト教との出会いで、高校1年生のクリスマスに受洗しました。大学はICU(国際基督教大学)で、学生時代たくさんの方々がクリスチャンになり、今も交友が続いています。大学卒業後は、外資系の銀行員を経て、ICUの宗務部・教会事務所、秘書・事務員として5年間勤めました。この時期、日本ルーテル神学大学の「人間成長とカウンセリング研究所」の基礎コ

ースに通い、カウンセリングの基礎を学びました。

その後HIV感染者の人権擁護・ケアの活動に関わるようになり、1993年から2年間ニューヨーク大学大学院に留学して、ヒューマンセクシユアリティの学びをしました。レズビアン・ゲイ・コミュニティサービスセンターでインターンとして働いたり、メトロポリタンコミュニティ教会(MCC)という、セクシユアルマイノリティクリスチャンの教派の教会に出席して、そこで学んだことを「キリストの風」というニュースレターで、日本の友人達に届けたりしました。帰国後、出産、子育て、離婚など、人生紆余曲折しながら、結局自分には人の話を聞く仕事に向いているなあ(というか、それしかできないなあ)とつくづく思うようになり、40代後半になつてから、臨床心理士の資格を取得し、カウンセラーとして働くようになりました。

現在はICUカウンセリングセンターと、東京の三鷹・調布で活動している社会福祉法人「単立ち会」で勤務しています。カウンセラーとしての方向性としては、「家族療法」「ナラティブセラピー」を中心に勉強を続けています。趣味は、手芸、ガーデニングとペンキ塗り、苦手なことは講義・講演と車の運転で、これらは、苦手過ぎて、決してやらないことにしています(笑)。

それから、これもまあ趣味の一環ですが、自宅で国内外の活動家の方々のために無料民泊を提供する活動をしています。もし東京近郊で泊まる必要がある方がいらしたら、ぜひお話を聞かせてください。人のお話しを聞くのが仕事ですが、自分の話をするのも大好きですので、見かけたらどうぞ話しかけてくださいね。

農村伝道シンポジウム報告

何かの犠牲の上で自分の生は成り立っている

3年 松永 明夫

講師である植木献先生の授業を、昨年度新設された科目「アジアキリスト教史」(明治学院大学白金台校舎にて聴講)で受けた。その充実した授業

格を取直し、カウンセラーとして働くようになりました。現在ICUカウンセリングセンターと、東京の三鷹・調布で活動している社会福祉法人「単立ち会」で勤務しています。カウンセラーとしての方向性としては、「家族療法」「ナラティブセラピー」を中心に勉強を続けています。趣味は、手芸、ガーデニングとペンキ塗り、苦手なことは講義・講演と車の運転で、これらは、苦手過ぎて、決してやらないことにしています(笑)。

それから、これもまあ趣味の一環ですが、自宅で国内外の活動家の方々のために無料民泊を提供する活動をしています。もし東京近郊で泊まる必要がある方がいらしたら、ぜひお話を聞かせてください。人のお話しを聞くのが仕事ですが、自分の話をするのも大好きですので、見かけたらどうぞ話しかけてくださいね。

身近な食についての学びは多くの示唆を与えられた。テーマに入る前に前提として、戦争と農業と人権の関わりから「生の構造」を学んだ。この時点で大変貴重な内容であった。「生」には常に犠牲が伴っていることを改めて考えさせられた。例えば、狩猟民族の方が農耕民族よりも好戦的というのはいまいちで、むしろ逆の側面を持つているところ。文明の発生と農業革命により、農民は農耕と防衛そして繁栄のために軍隊を持ち狩猟採集民を圧倒することになった。古代ギリシャでは農地拡大のため、古代ローマでは兵士への褒賞としての土地の確保が戦争の目的になっていた。戦争と親和性の高い体制が、軍事独裁などを想像しがちであるが、実は民主政も戦争によって形成されてきたのであった。民主政は市民を国家の必要に応じて戦争遂行体制に組み込める人口と捉え、参政権を保障して戦争動員する軍事民主主義から始まったが、今日でもその本質は変わっていない。そして、従軍義務と市民権を組み合わせて発展してきた歴史を持つ民主主義は、人権を擁護する体制であると同時に、民主主義の基本単位としての人間の破壊を前提にするという矛盾を抱え

ている。例えばアメリカの南北戦争では黒人参政権の保証、フランス革命では市民の普通選挙制の保証とそれぞれの兵役参加は一体となっていた。女性の権利確立にも戦争は大きな役割を持つ。兵器が道具のみで行われた頃は兵士の志気や体力が戦況に影響したが、産業が発達するにつれて、補給体制の質や兵器の生産効率を上げる取り組みなどの後方支援が戦況に影響するようになった。ナイチンゲールがその象徴であり、女性の戦場での活躍が社会的地位の確保に繋がっていった。

その他、「なぜ食が神学の課題となり得るのか」、「食と工業化の接点はどこまで許されるのか」、「プロテスタントによる食の工業化の推進（についての功罪）」の講義があった。この報告では、戦争と農業と人権の関わりから「生の構造」についての内容を多く書かせて頂いた。

本格的な食とキリスト教の内容に入る前に講演が終わってしまった印象もあったが、言い換えれば、テーマの前提から重要かつ充実した内容であったといえる。また機会があればその続きを講演または授業をして頂きたい。ちなみに、植木先生は大学のゼミ生や有志による「食べる」とい

—— 2019年度入学案内 ——

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2018年10月9日(火)～11月9日(金)
- 第2回 2019年1月8日(火)～2月8日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2018年11月20日(火) 午前9時～午後3時
- 第2回 2019年2月19日(火) 午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校
〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
振替番号
農村伝道神学校 00160-6-18485
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

う行為を見つめ直す企画(料理キャンプ)をお住いの軽井沢にて行われている。こちらにも機会を作って参加したいと考えている。

理事評議員会報告

◇2018年度第1回の理事会・評議員会が、5月29日の午後から西早稲田の日本キリスト教会館、NCC会議室で開催された。主な議案は①2017年度決算承認の件、②認定こども園移行に伴う「寄付行為変更」の件であり、両議案ともに承認された。決算に関連して、神学校の財政の大半は後援会の献金、維持献金によって支えられてきたが、支援者の高齢化に伴い、献金の方法について改善が必要との意見が出され、早急に検討することになった。

◇その他2017年度事業報告が報告され、4月から認定こども園に移行した鶴川シオン幼稚園の現状の説明があった。1、2歳児の受け入れに

ついて不安を抱えての出発であったが、4月末、町田市からの訪問を受け、幼稚園全体の雰囲気も落ち着いていると評価された。子ども園移行のために、職員は早番、遅番などのシフト体制、勤務時間延長などで対応に追われているが、一致協力して新年度の保育が始まっているとの報告があった。

◇高柳前校長が退任され、ロバート・ウィットマー校長が就任し、新たな教師体制で新年度がはじまった。新校長から、新学期の報告と共に、日曜日には神学校の周辺の諸教会、特に農伝の卒業生の教会を訪問し、門安しているとの報告があった。今年度から理事として小海基氏(荻窪教会牧師)、比企敦子氏(日本キリスト教協議会教育部総幹事)、

評議員では、平良愛香氏(農村伝道神学校教師)、横野朝彦氏(前番町教会牧師)が新たに加わった。

◇最後に、退任された高柳富夫前校長、理事・書記として長らく議事録を作成して下さった横野朝彦牧師に感謝して終了した。(書記 本田栄一)

お知らせ

七月二日(月)～四日(水) 神学科同窓会 場所: 熊本県グリンピア南阿蘇
七月二四日(火)～二七日(金) 集中講義I世界キリスト教史
…(大倉一郎講師)
九月二五日(火)～二六日(水) 集中講義II他宗教に学ぶ…イスラム教…(永野ナセル講師)
九月二七日(木)～二八日(金) 集中講義III牧会心理学…(大西秀樹講師・石田真弓講師)